

ミドルリーダー養成コース

佐藤 雄大

私が教職大学院進学を希望した理由は、ミドルリーダーに求められる知識やスキルを学びたいと考えたからです。私は農業高校に勤務しており、これまで先輩教員や指導書から学んだ知識や経験を積み重ねて活動してきました。しかし、ミドルリーダーの役割を果たす場面が多くなるにつれ、新たな疑問や課題が生まれました。そこで校長先生に相談し、このたびの機会をいただくことができました。

1年目は教職大学院の理念である「理論と実践の往還」に基づき、専門家教員・実務家教員からさまざまな知見や先行研究を学びました。私はこれまでの取組を省察するうち、頭のなかで理論と実践が紡がれていくような充実した感覚が生まれました。

また、教職大学院で学ぶにあたり、現任教員院生と学部卒院生は私にとってとても心強い存在です。院生は互いの意見を尊重し、それぞれの経験や学びから紐解いた意見交換をしています。メディア授業のオンライン協議やグループワークであっても、対面授業と変わらない活動を行うことができました。私はこの経験から活動のヒントをもらい、次へのエネルギーに繋げることができています。

具体的な実践活動としては、青森県内の教職員・教職大学院生を対象にした「NITSカフェ in 弘前大学教職大学院 双方向でつながろう！オンラインの授業を体験してみませんか」があります。活動の背景には、ミドル院生による勤務校実習の省察で共通していた、勤務校教員のオンライン授業に対する困り感があります。私はミドル院生と協働し、研修会の企画・立案・準備・運営に取り組みました。当日は県内の小・中・高校の先生方などにご参加いただき、授業進行の情報提供や、充実した意見交換を行うことができました。

2年目となる今年は、勤務校の教職員と協働して実践研究に取り組んでいます。教職員や家族に感謝の気持ちを持ち、学び続ける教員として省察力・協働力・課題探究力・自律的発展力を高めていきます。